

佐久市スポーツ推進計画素案に対する意見募集の実施結果

1 意見募集の概要

(1) 意見募集期間

平成29年1月10日（火）から1月24日（火）までの15日間

(2) 案の公表方法

ア 佐久市ホームページへの掲載

イ 佐久市役所本庁市民ホール、体育課・各地区体育課事務所窓口、各支所、各出張所窓口に閲覧用として設置

(3) 意見募集方法

ア 郵送

イ 電子メール

ウ ファックス

エ 直接持参（体育課、各地区体育課事務所）

2 意見募集の結果

(1) 提出された意見 1名6件

(2) 提出された意見の概要とそれに対する市の考え方 別紙のとおり

佐久市スポーツ推進計画素案に対して提出された意見の概要とそれに対する市の考え方

1 佐久市スポーツ推進計画素案の記載内容に関する意見

No.	意見・提言	市の考え方
1	<p>【施策の展開についての健康運動指導士の位置づけ】 まず健康運動指導士は、「保健医療関係者と連携しつつ、安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成及び実践指導計画の調整を担う者」であり、昭和63年から厚生大臣の認定事業として、健康習慣病を予防し、健康水準を保持・増進する役割があります。 よって、「基本目標1 現状と課題」にあります、「スポーツ推進委員や保健補導員と連携し、生活習慣病の予防——」は、保健医療関係者・健康運動指導士と連携すべきと考えます。同様に、生涯スポーツの推進においても、ウォーキングの普及などは、健康運動指導士の指導下において実施することで効果が発揮されます。 また、学校と連携したスポーツ活動はスポーツ推進員が行うべきであると考えます。 また「年間を通じて1回以上スポーツをする成人(20歳以上)の割合の増加」も目標値の94%の数字だけでは、一般市民には理解できないと思います。この数値目標を達成することで何が得られるのか、エビデンスにより設定すべきではないでしょうか。 同様に「第3章計画の基本的な考え方」にある、数値目標「成人(20歳以上)週1回以上のスポーツ実施率」も平成33年度の65.0%は「日本再興戦略2016」にある目標値であることなども説得力があると思います。</p>	<p>○健康の保持増進や体力づくりに着目したスポーツへの取組や活動を推進するためには、保健医療関係者、健康運動指導士との連携は必要であると考えています。P32の「2 生涯スポーツの推進」の(1)について、「スポーツ推進委員や保健補導員などと連携し、」を「地域で活動するスポーツ推進委員、保健補導員をはじめ、保健医療関係者、健康運動指導士などと連携し、」に修正します。</p> <p>○現在もスポーツ推進委員と連携して、子どものスポーツ活動の充実を図っています。また、専門的知識を有する方との連携も必要と考えておりますので、P38の「2 学校と連携したスポーツ活動の充実」の(2)の「※健康運動指導士や理学療法士をはじめとした専門家」を「スポーツ推進委員、※健康運動指導士、理学療法士など」に修正します。</p> <p>○「年間を通じて1回以上スポーツをする成人(20歳以上)の割合の増加」の数値目標については、一年間に運動やスポーツを行わない成人は、成人全体の約4割であり、スポーツに対する無関心層も含め、スポーツに関わりの少ない市民のスポーツ実施率の向上を目的として設定しています。P31の「基本目標1 スポーツによる健康で活力あるまちづくり」の「現状と課題」にその旨を記載します。</p>

No.	意見・提言	市の考え方
2	<p>【官民によるスポーツ環境の整備促進】 基本目標1 スポーツによる健康で活力あるまちづくり 基本目標6 市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備 地域のスポーツ環境については、総合型地域スポーツクラブだけを育成すれば良いことではなく、多くの団体が必要であることを加えていただきたいです。 また、基本目標1の施策の展開にある、整備された運動のできる施設として、佐久市温水利用型健康施設や臼田健康活動サポートセンターが挙げられていますが、NPOや各法人においても各種施設や教室等が多くあります。このように施設を限定することで、民間を圧迫しかねない表現については変更を希望します。</p>	<p>OP42の「1 地域スポーツ団体などの支援・育成」の(2)の「総合型地域スポーツクラブへスポーツ教室を委託するなどし、スポーツクラブの育成」を「地域で活動するスポーツ団体の育成」に修正します。</p> <p>OP32の「1 スポーツによる健康づくりの推進」(4)の「佐久市温水利用型健康運動施設や佐久市臼田健康活動サポートセンターなどの周知」を「身近な地域にある運動施設の情報提供」に修正します。</p>
3	<p>【佐久市出身アスリートへの支援】 基本目標7 競技スポーツの振興 佐久市ゆかりの選手を市民が一丸となり応援するとありますが、単にオリンピックへ出場した選手だけでなく、たとえば佐久市出身者で、高校・大学・社会人でスポーツにおいて活躍している選手の紹介などを積極的に推進していただきたい。たとえば広報での紹介などで、選手たちのモチベーションも上がるでしょうし、地域の一体感醸成に向けては基礎となる部分ではないでしょうか。</p>	<p>OP44の「1 競技力の向上」の(4)の「本市にゆかりのある選手が」を「スポーツで活躍する本市にゆかりのある選手を紹介するとともに、同選手が」に修正します。</p>

2 今後、スポーツ推進計画を進めていくに当たって、参考とさせていただく意見

No.	意見・提言	市の考え方
4	<p>【樋橋地区街づくり等による大規模イベント誘致】 基本目標2 スポーツを通じた交流による賑わいのあるまちづくり 昨年、日本再興会議2016が発表されました。その中で、スポーツ産業の未来開拓について、2020年東京オリンピックを契機とし、スポーツ産業を国の基幹産業へ成長させるとしています。このビジョンでは「スマート・ベニュー」の考え方を取り入れた多機能型施設が、周辺のエリアマネジメントを含めた、サステナブルな交流施設として地域活性化・街づくりの起爆剤となる潜在力を秘めていると言われていました。佐久市においても、佐久運動公園のように郊外型だけではなく、岩村田樋橋地区の街づくりなどに関連して、交流人口創出が見込める大規模イベント誘致に繋がってはどうでしょうか。</p>	<p>○今後のまちづくりにおいて、スポーツ施設が果たす役割は重要であると考えておりますので、今後の施策を進めるにあたって参考とさせていただきます。</p>
5	<p>【佐久市としてのオリンピックレガシー】 基本目標3 東京オリンピック・パラリンピック開催を通じたスポーツ振興 「オリンピックレガシー」として国内各自治体での取組や、各スポーツ団体での取組が見込まれている所ですが、佐久市としてもまだ活用できる補助金を利用して、既存施設等に付帯した施設の充実を望むところです。</p>	<p>○東京オリンピック・パラリンピック開催を通じた取組を進めていくに当たって、参考とさせていただきます。</p>
6	<p>【スマート・ベニュー（街中に多機能型競技施設の建設）の実現を】 基本目標5 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 市の運動公園野球場の建設では、観ることよりプレーすることに重きが置かれてきましたが、たとえば、大阪吹田市の市立サッカースタジアムは、スタジアム建設募金団体を設立して約140億円を集めました。これが市に寄贈され、ガンバ大阪が47年間の指定管理契約を結ぶ形での運営が行われています。 首都圏に程近い佐久市においても、樋橋地区に絡めて上述しましたが、文化施設や商業施設等とリンクした、多機能型の競技施設を建設し、市民のスポーツを観る・支えることの充実を望むところです。</p>	<p>○今後のまちづくりにおいて、スポーツ施設が果たす役割は重要であると考えていますので、「基本目標8 体育施設の充実・整備」の施策を進める中で、参考とさせていただきます。</p>